釣れ釣れなるままに

２０１３年思い出の釣行記 PART.　２

赤穂浪士5人衆

鹿島釣狂

岩見沢の仕事仲間である堀部安兵衛が動いた。２月２日に「討ち入りの会」の面々が砂川遊水池にワカサギ釣りに来るというのだ。大太刀（長竿）を振るって助太刀いたすということで、私を誘った。安兵衛の長竿はチカ釣り用の振り出し竿をワカサギ釣り用に改良したものだ。竿先が微妙に柔らかいのでワカサギ釣りに適しているのだそうだ。「討ち入りの会」では一番の剣客と見ている。旭川から遊水池に討ち入りしてくるメンバーは総大将である大石内蔵助と吉良上野介屋敷の裏門大将大石主税、かの「徳利の別れ」で忠義に厚い赤埴源蔵である。

「討ち入りの会」とは、学生時代の同期会のことなのだが、昭和４７年卒業ということで「忠臣蔵」の「赤穂浪士四十七士」にあやかって「討ち入りの会」と名付けられ、退職後も親交が続けられている。卒業後４０年にもなるが、私が出席したのは３回程度の不良会員だが、旭川に残っている者を中心として毎年のように親睦を深め合っているのだ。この「討ち入りの会」には「釣り同好会」が組織されていて、個人レベルで３、４人が集まって釣行を繰り返しているらしい。今回は安兵衛が「討ち入りの会」の新年会に出席したことからワカサギ釣りの話に発展したのだ。当日は、生憎というべきか幸いというべきか、午後勤務となっていたので、午前中だけお付き合いすることにした。

女房が眠りにつく前に、私が何時に出かけるのかと聞いてくる。６時と言うと「朝飯におにぎりでも作りますか」とまた聞く。「コンビニで済ますからいい」と言うと、何か考えていたらしく、チョッと間をおいてから「まあいいか」と呟いた。この「間」は「朝ごはんの予約時刻をセットしてしまったので入れ直すこともないか」というところだろうと臆測した。

寒さが苦手な私は、天気を見ながらのんびりした行動をとるのだが、この日はお迎えする側として、頑張ってまだまだ薄暗い早朝６時には出発した。６時半頃には白々と明るくなってはきたが、風が強く雨も降ってきた。さらに、明日の日曜日には猛烈な吹雪になる

と予報している。

現地には１番に着いた。まもなく「安兵衛」「内蔵助」「主税」「源蔵」が揃った。そして強風の為お互いのテントを立てるのを手伝いながら準備を整えそれぞれのテントの中に潜り込んだ。快調なアタリで釣れ続ける。すぐに１００を超える数字になってきたので、浪士達の釣れ具合を見て回った。源蔵の釣れ方が今一である。彼は朱鞠内湖や網走湖で鳴らした兵だがこの遊水池の小さすぎるワカサギに手を焼いている様子なのだ。私の釣り道具を渡すと何だか釣れる様になってきて一安心する。

強風の為にテントが怪しくなってきた安兵衛が「背中に雨水が滴り落ちて尻にまで届いてきた」とテントを畳んでしまった。そのとたん強風がぴたりと止み、日差しも出てきた。主税が「安兵衛がテントを畳んだ途端に穏やかになりワカサギも釣れ出した。」と言うものだから、安兵衛は源蔵のテントに入って再び釣り出した。

１２時になり、私が帰り支度を始めると、活性が上がってきたのか益々釣れる様になった。今度は内蔵助が「吉良上野介（忠臣蔵では敵役となるが、上野介がいないとあだ討ちにならないので私が名乗ることにする）が竿を畳んだお陰で釣れ具合が絶好調になった」と宣う。皆、１時過ぎまでは頑張るらしい。

私の釣果は、源蔵のお土産に持たしてあげた。そして源蔵が得意とする蕗採りを６月に計画し、７月１日の解禁日にはヤマメ釣りに連れて行ってもらう約束をした。源蔵が穴場を熟知しているらしく、１００匹は下らないというから、今から楽しみにしている。源蔵、曰く「夕鶴なら恩返しといいたいところだが、忠臣蔵なので砂川の仇討ちは中頓別でというところか」。実は私と源蔵は「討ち入りの会」の中の組織で「野郎会」に所属している。この「野郎会」は同じゼミナールで勉学をとった１０人の仲間で、全道各地に散らばった仲間を集めて２年おきに会合を開いている。今年は私が幹事となって岩見沢で開催することになっているのだ。また、源蔵の末娘が結婚式をハワイで挙げるというので、それに参列したいものだと密かに思っている。ハワイでカジキ釣りが出来ればなんてね。

私の道具を持つ赤埴源蔵のテントに潜り込んだ堀部安兵衛（左）

絡んだ仕掛に悪戦苦闘の大石内蔵助

大石主税にワカサギヒット